授業づくり研修講座　実践レポート

南中学校　氏名　犬塚麗菜

単元名　第一学年「少年の日の思い出」　ヘルマン＝ヘッセ　（三省堂）

実践のポイント（工夫）

「少年の日の思い出」を大きく２つ（①青いコムラサキ事件　②クジャクヤママユ事件）に分け、少年時代の主人公「ぼく」の心情を深く追った。その中でも、物語の最後の場面にさしかかったところで、「結局エーミールは、ぼくがクジャクヤママユを盗み、壊したことを予め知っていたのか、知らなかったのか？」をテーマに考えさせる授業を行った。知っていた派につくか、知らなかった派につくかは自由だが、そう考えた根拠を明確にし、「あぁ、なるほど！」と思わせる文章を書くよう意識させた。

実践内容

1. 以前、青いコムラサキをエーミールからこっぴどく批評された僕が、エーミールにどんな印象を抱いていたかを再度確認。

例えば、“ぼくは妬み、嘆賞しながら彼を憎んでいた”“ぼくは２度と彼に獲物を見せなかった”という部分。

1. クジャクヤママユを見るためにぼくが彼の家へ行った場面にふれる。この時、当初のぼくの目的は、クジャクヤママユを盗むためではなく、〝見る〟為にエーミールのもとへ行った点を確認する。

以前の授業で確認した、ぼくの性格とエーミールの性格にも再度ふれた。

ぼくの性格

チョウ集めに熱中してしまうと周りが見えなくなる

チョウが大好きで、特にクジャクヤママユは何度も本の挿絵を見るほど夢中なこと

エーミールの性格（あくまでぼくの視点から見たエーミール）

模範少年　非の打ち所がないという悪徳をもつ

チョウの収集は丁寧で宝石のよう（細かそうな性格）

1. ◎謝りに行ったぼくが、すぐには謝れなかったこと。

◎家からでてきたエーミールが「悪いやつがやったのか、あるいは猫がやったのかわからない。」とぼくに対して言ったこと。

◎謝ったぼくに対して、エーミールは怒鳴ったりせずに「そうか、そうか、つまりきみはそんなやつなんだな。」と言ったこと。

など、根拠になりそうな部分を個人で出した後、交流して意見を共有し、練り直したあと個人で理由を書く。

振り返り

前時の授業でぼくとエーミールの性格について、班活動を加えながら丁寧に内容を確認したので、今回の理由を考える際にも、「二人ともチョウが大好き」という共通点を根拠として考えた生徒が何人かいた。お手伝いさんとすれ違ったことや、ぼくが夜になってからエーミールの家へ行ったことにも気づく生徒がほとんどであった。結局、本当にエーミールが知っていたのかどうかについては本文で明らかにされていないが、想像を多少加えながらも生徒たちは楽しく考え、交流できていたと感じている。